環境認識

環境を子どもがなぜ知る必要があるのか。子ども達が自分を取り巻く環境を知ることは、生きていく上で、必要な情報を得ることである。

知る必要のある環境は

自然に関する事柄

①生き物

（動物・植物・人間・魚・鳥・昆虫）

②季節

（四季・天候）

③素材

（石・ガラス・水・土・紙・木・布・鉄）

社会に関する事柄

①園と周りの環境②地域③交通④郵便

どのように知るのか知らせるのか

- 子ども達は、周りの大人や、仲間からの働きかえに応じて、様々な経験や体験し、それを通して、知識を得、認識していく。
- それは、一人の人間として社会に生きていく為に必要な事柄を知り、必要な時に

取り出せるようになっていく過程でもある。

※幼児期に得る知識には、感覚や、感情を伴う事が、大切である。特に幼児期には、五感を通した知識の獲得によって、後に他人から得た知識を、自分のものとしていく事ができる基礎がつくられる。

環境を知る過程において

- 大人が周りの環境をどのように捉えて生きているかという事が影響を受ける。
- 自分たちの生きている環境と状況の中から、子どもと共に話題にし、体験するテーマを選び出し、年齢に応じた、内容と方法を考える。
- 子どもからの質問や、疑問に答える。または、一緒に考える。

環境認識の計画について

＜地域の特性や、子ども達の育ち方＞

- 家庭で、たくさんの経験を積んでいる子どもが多い。
- 園や地域でほとんど経験する機会を持てずに生活をしている子どもが多い。
- 一緒にいる子ども達の状況を把握して、具体的な環境を知るプログラムを立てる事が必要です。

環境認識の計画

- 園・家庭の中で、出来る事、戸外で出来る事を分けて考える。
- 自然との関わりで、出来る事（飼育活動・畑で作物を育てる・部屋を自然物で美しく飾る）
- 社会的関わりで知らせたい事（交通ルール・大人に対しての礼儀など）を分けて計画してみる。
- 適したテーマを選び出して、如何に行うかを具体化していくことが、大人に求められる。

※繰り返しになるが、五感と経験を忘れないように計画していきたい。中でも（触覚・嗅覚・味覚）を伴う経験を心がけたい。

具体的方法①

- 子どもと一緒に、五感を通して体験できることを計画し実行する。計画の段階で、実行過程に大人が、語れること、子どもに経験させられること、質問できること、観察できること、記録できること、必要な時間、場面、道具、など、具体的に考え、予測して書き出しておくこと。

具体的方法②

- 体験したことを遊びの中で、追体験し、消化できるように、道具や遊びの環境を整える。

※絵本や図鑑で調べる。

※思い出して絵を描く、記録した物を整理する。

※ゲームの中で追体験する。

※遊びの中で再現するなどの可能性を考える。

具体的方法③

- 体験したことについて、大人と一緒に話す機会を設ける。大人が経験したことを話す。子どもの経験を他の子ども達と一緒に聞く。・・・などが考えられる。

※繰り返し

子どもは、繰り返すことで、経験をより定着させていくことができる。偶発的な経験も必要であるが、幼児期の３年間にどのような経験や、責任を持つ体験が積み重ねられるか、大人の配慮が求められる。

散歩はどんな機会があるか

- 毎日ではないが、散歩にいく機会がある。散歩は、①地域を知る②季節を感じる③交通に関し具体的経験をする④動物と出会うなど、たくさんの機会を含んでいる。
- 周りにあるものや、出来事に関して、大人が何を話せるか、何に関心を示すか、が常に問われている。時には実際に買い物をする、手紙を出す、などの経験を加えることもできる。

非日常的な活動

- 遠足や特別な外出プログラムがあると思うが、行き先によって、子どもが何を体験できるかを前もって考えておくとよい。
- 距離と人数によっては、公共の交通機関を利用することもできる。交通機関の利用法、乗っている時のマナーなども、伝える良い機会となる。
- 地域の特性を活かした（お出かけプログラム）を企画することを勧めたい。

体験と遊び

- 子ども達が、体験し、得た知識を共有し、思い起こす作業は（遊び）を通して行われる事が多い。体験したことが、遊びとして再現できるように、子どもの会話や、遊びの様子に敏感でいたい。
- 再現できるような、場所や道具の援助を的確にしてやりたいものである。

具体的方法での遊び

- 課題遊び・・大人から刺激を受けて一緒にあそぶ（その後体験を子どもが遊ぶ）
- 具体的課題遊び

①早く答えてゲーム

②カード分類ゲーム

③うそ・ほんとゲーム

④スリーヒントゲーム

⑤２枚のカード（違いを言う）

子どもに知ってほしいこと

- 乗り物や交通

①歩行者のルール
②公共の乗り物
③働く車
④道路を走る乗り物
⑤線路を走る乗り物
⑥空を走る乗り物
⑦水路を走る乗り物
⑧交通のルール
⑨乗り物の役割
⑩乗る時のマナー
⑪エネルギー電気など
⑫技術の発展

知ってほしい事（人間）

- 外観（身体の部分）
- 機能（感覚器官・病気と健康）
- 成長（体内・感情・生命の条件）
- 顔の表情
- 職業

※天候や季節、行事、生き物他の分野との関連も考える。

数的認識（３つの領域）

- 物や人の集まりの比較

比較・・違い・グループ分け・順番に並べる。

- 数の概念

数・量・・多い・少ない・同じ・減らす・増やす・面積を計る。

- 幾何学的領域の経験

図形・比較・直線・曲線・紙をたたむ

深く環境認識を考えて

- 環境を子どもがなぜ知る必要があるのか

①この世界を知ることは、子どもが安定して過ごせるし、安全に生活できる。

②子どもが環境に興味を持ち、知識となることが大切である。

③集団をどう考えるか、個人をどう考えるのかの中で人間愛を育てる。

④行為を通して環境、周囲を知っていく。自由な中でしか環境認識は、できない。

⑤個別の経験、異なった経験を捕え、経験を提供できるような環境を作っていくこと。

⑥生きた自然がある限り、それらを与える。現実の環境の中で、子どもに時間を与え、観察、体験できるように体系化していく。

⑦経験が集まって体験となったものでないと、保育士が方向ずけることは、できない。

なぜ課業をするのか

- 課業とは、保育者が意図的・計画的に子ども達が、多様な経験をし、経験したことを意識し、整理し、練習する機会を用意することです。
- 課業で子どもは新しい知識や、学習材料、技術、思考方法などについて経験、学習、練習します。課業では、自由遊びの中では、経験できない興味のある活動を組織することができます。子どもの発達段階に応じて必要な経験ができる

卒園までの見通し

- 小学校へ入学したら、授業に自由に参加するという訳にはいきません。学校では必要なだけの時間は注目すること、その時の課題を理解すること、（気分と状況に左右されずに）
- 最後まで行為を続けられることが要求されます。（園で自由参加の課業でも）自分の意志で課業に参加することの積み重ねが、年長になるころには、課業に参加することが習慣になるように、注意深く働きかけ、課業に参加してほしいと思っていることを表す必要があります。

幼児の環境認識の位置

- 環境認識により経験が、豊になるだけではなく、様々な現象について関連づけてとらえ、言語化することは、ほかの活動についても影響を及ぼします。

①認識が深まり感情も刺激されるので、遊びの表現意欲が増し、その内容も豊になる。

②他の領域活動、描画制作・文学・数・体育などにおいても状況理解が容易になり、情緒の面でも共感することが多くなります。

③生活の様々な場面で自主的なります。物事の因果関係・順序が分かり予想できるので自主的になる。

④仲間関係がスムーズになる。人間や社会に対する理解も深まり仲間に対して多面的な見方をするようになる。